

先生各位

LOX-index®検査報告書改訂のお知らせ

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さてこの度、「LOX-index®検査」につきまして、測定委託先より報告書の仕様を一部変更する旨の連絡がございましたので以下の通り、ご案内申し上げます。

尚、基準値やリスク判定には変更はございません。

何卒、ご了承賜りますようお願い申し上げます。

謹白

記

■実施日 2022年 4月 1日（金）測定委託先発行分より

報告書の主な変更点：

● 表紙

- 受診者情報の表記箇所を左上に変更
- 企業情報や受付番号等が記載できるよう下段へ備考欄を追加

● 中面左

- 「LOX-index®とは？」の説明文章を表紙に移動
- 総合評価グラフの色合いを変更

● 中面右

- LOX-index®の個別データを削除し総合評価グラフへ統一
- sLOX-1、LABの測定結果値がわかりやすいようグラフデザインを一新

● 裏表紙

- 受診後の流れがわかりやすいようフローチャートを変更

※変更はデザインのみとなり、基準値やコメントの変更はございません。

報告書サンプルは別紙をご参照ください。

ご不明な点等ございましたら貴院担当もしくは弊社お客様窓口までお申し付け下さい。

別紙：報告書イメージ

<外面>

● 受診後の対応について ●

LOX-index®の結果に応じて、生活習慣の改善や予防への対策に取り組むことをおすすめします。
リスクが高かった方は、動脈硬化が進行している可能性が高いため、必要に応じて二次検査や精密検査のご受診をおすすめします。

高リスク
(7,160以上)

中高リスク
※LAB値、sLOX-1値ともに高い場合
(LAB値:8.0 µg cs/mL以上 sLOX-1値:1,441 pg/mL以上)

他に動脈硬化の危険因子があり、
動脈硬化の進行が懸念される方

中リスク

他に動脈硬化
危険因子がない方

低リスク

二次検査(例:頸動脈エコー検査、FMD検査など)
LOX-index®の値が高い方は、動脈硬化が進行している可能性があり、エコーなどで血管の状態を、より詳細に検査していただくことをおすすめしております。

精密検査(例:MPV検査など)
二次検査で異常が見られた際に、医師の指導のもとご受診いただくことをおすすめしております。

動脈硬化予防の生活習慣改善指導

代表的な二次検査

- 頸動脈エコー検査
超音波の画像を基に、動脈硬化の有無や程度を調べる検査です。
- FMD検査
動脈硬化の初期段階で起こる血管の弾力性の低下を測定し、早期の動脈硬化を調べる検査です。
- CAVI検査、ABI/PPV検査
動脈の硬さ、つまり弾力性を測定し、手足の血圧比や脈波を測定し、動脈硬化の程度を調べる検査です。

代表的な精密検査

- MRI/MRA検査
電磁波を使用し、脳・心臓の断層像、血管の状態を映像化する検査です。
- 心臓核医学検査
放射線量をコンピュータ処理して画像化し、心臓の血流の隅々を映し出す検査です。
- 心臓CT検査(コンピュータ断層撮影)
X線とコンピュータを使い心臓の状態を調べる検査です。
- 心臓カテーテル検査
体内にカテーテルを通し、造影剤を入れてCT撮影を行い、血管の状態を調べる検査です。

5982467068

医療機関名：PMCCクリニック
 受診日：2021/4/1
 受診者名：サンプル タロウ
 カルテID：123456789
 備考①：株式会社プリメディカ
 備考②：

脳梗塞・心筋梗塞発症リスク検査報告書

LOX-index®

ロックス・インデックス

LOX-index®は脳梗塞・心筋梗塞の発症リスクを評価する指標です。
 血中のsLOX-1(可溶性LOX-1)値中に放出されたLOX-1とLAB(総ホモステロール)を測定し、
 脳梗塞・心筋梗塞発症リスクを4段階で判定いたします。

管理会社ユニークコード:yyyyymmddXXXXXX 営業所番号:XXXXX 施設管理コード:XXXXX.XX

PreMedica

<中面>

LOX-index® 脳梗塞・心筋梗塞発症リスク検査報告書

氏名 **サンプル タロウ 様**

受診日 **2021/4/1**

性別 **男性**

年齢 **47歳**

カルテID **123456789**

総合評価

脳梗塞・心筋梗塞発症
リスクは **低** です。

LOX-index®
今回の測定結果 **736**

測定日	LOX-index®
今回 (2021/1/18)	736
前回 (2018/10/1)	3,555
前々回 (2017/10/1)	5,963

● 今回の結果 (2021/1/18) ▲ 前回の結果 (2018/10/1) ■ 前々回の結果 (2017/10/1)

今回のLOX-index®検査の結果では、脳梗塞・心筋梗塞の発症リスクは低リスクと判定されました。
 LOX-index®の値が低く、動脈硬化のリスクも低い理想的な状態と考えられます。しかし、動脈硬化が原因となる脳梗塞や心筋梗塞は、自覚症状がほとんどないまま進行し、発症に至ります。脳梗塞・心筋梗塞は生活習慣の改善などで予防することができる可能性の高い疾患です。日頃からバランスの良い食事や運動を中心とし、今まで以上に健康的な生活習慣を心がけましょう。
 また、予防や自身の健康状態を確認するためにも、LOX-index®検査を定期的にご受診いただくことをおすすめします。

個別評価データ

sLOX-1 今回の検査結果 **320** pg/mL

sLOX-1の値は前回と比べて改善し、理想的な値まであと一歩と判定されました。

測定日	sLOX-1 (pg/mL)
今回 (2021/1/18)	320
前回 (2018/10/1)	790
前々回 (2017/10/1)	890

LAB 今回の検査結果 **2.3** µg cs/mL

LABの値が前回と比べて改善し、理想的な状態と判定されました。

測定日	LAB (µg cs/mL)
今回 (2021/1/18)	2.3
前回 (2018/10/1)	4.5
前々回 (2017/10/1)	6.7

ただし、安心は禁物です。動脈硬化は、特に加齢に伴って進行しやすくなります。また、高血圧や塩分摂取の増加、ストレスなどによりsLOX-1は高くなります。食生活の改善やストレスの解消などにより、健康的な生活習慣を心がけ、リスクの軽減に努めましょう。

ただし、安心は禁物です。動脈硬化は、特に加齢に伴って進行しやすくなります。LABの値を理想的な状態と維持できるよう、今後も健康的な生活習慣を心がけましょう。

エスロックスワン
sLOX-1とは

LOX-1は血液中から異物を取り除く働きをしています。本検査で実際に測定しているsLOX-1はLOX-1が血中に溶け出した状態のもので、炎症で上昇することが知られています。血管に障害が起こるとsLOX-1の生成が促進されるため、sLOX-1は血管炎症の指標として利用されています。

エスロービー
LABとは

総ホモステロールとLABは、悪玉コレステロールであるLDLコレステロールが酸化し、サビ付いた状態を示します。LDLコレステロールの一部は活性酸素等の影響によりサビつきます。このサビ付いたLDLコレステロールは動脈硬化を引き起こす原因となります。

LOX-index® についてより詳しい情報はこちらから
 検査報告書の見方、具体的な解説、数値を改善するためのアドバイスを公開中です。
 さらに会員登録すると、特別キャンペーンのご案内や、検査結果に応じて生活習慣改善に役立つコラムなどを提供いたします。
<https://www.premedica.co.jp/mypage/iox-index/>

※当検査は、研究検査項目となるため保険適用外で使用いただくことができません。
 ※本検査は検査目的のみの実施。詳しくは、先にご確認ください。

受診コード：89DMGX07NP

<後面>

※当検査は、研究検査項目となるため保険適用外で使用いただくことができません。
 ※本検査は検査目的のみの実施。詳しくは、先にご確認ください。

受診コード：89DMGX07NP

LOX-index® についてより詳しい情報はこちらから
 検査報告書の見方、具体的な解説、数値を改善するためのアドバイスを公開中です。
 さらに会員登録すると、特別キャンペーンのご案内や、検査結果に応じて生活習慣改善に役立つコラムなどを提供いたします。
<https://www.premedica.co.jp/mypage/iox-index/>

※当検査は、研究検査項目となるため保険適用外で使用いただくことができません。
 ※本検査は検査目的のみの実施。詳しくは、先にご確認ください。

受診コード：89DMGX07NP